

西原町 小波津区自治会

集落
部門

「みんなの参加で伸びゆく小波津」でふるさとづくり
(平成29年度認定)



小波津区は、西原町のやや中央部、中城湾に注ぐ小波津川の中流域に位置する集落で、集落の背後丘陵には、上又嶽、下又嶽、亭良佐井(ティラサガー)、津記武多(チチンタ)グスクの史跡があり、集落前面には農地が広がり伝統的集落形態を残す地域になっている。

かつて、その農地一帯は、クファチターブッカーと呼ばれる稲作地帯で、西原口説にも「ターブクワ(たんぼ)前なちよる小波津村」と歌われており、戦後のタードーシ(稲作から甘蔗作への転換)で、サトウキビ生産に代わった現在でも稲作に由来する伝統行事が盛んで、毎年、稲の収穫に感謝する六月ウマチーと六月ウハチには綱引きが行われている。

八月ジュウギャには、五穀豊穡や集落の繁栄を祈願する行事として小波津の棒や獅子舞が行われており、特に6年に1度、卯年と酉年に行われる「七年まーる村遊び」は、集落をあげての豊作祝いで、舞踊、棒、獅子舞、狂言、教訓歌劇、組踊りが行われる。

他に、同区が沖縄戦において激戦地であったことから、戦没者の碑を建立し、毎年慰霊祭を行い、戦争の記憶を風化させない取組等も行っている。

このように、伝統的集落の形態を維持し、伝統文化の継承や地域行事を通した「ふるさとづくり」に取り組んでいることから、「沖縄、ふるさと百選」集落部門に認定された。



ウマチー綱



獅子舞



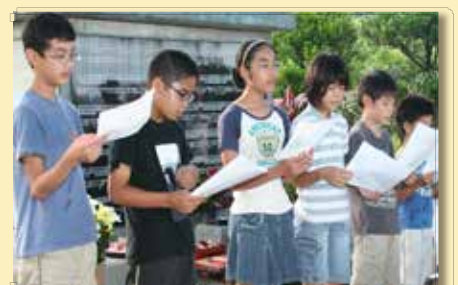
小波津の棒



ジャガイモスープ



集落センターまつり



慰霊祭